令和８年度

（令和8年11月改訂版）



みんなの予防接種

予防接種を受けるときは、
特徴や副反応をよく理解して
受けましょう。

接種できる医療機関の情報は、P25をご覧ください。
また、医療機関の接種内容（時間、曜日など）が変更になる場合がありますので、
医療機関にご確認の上、接種してください。

網走市

目　次

ページ

１．予防接種ってなんだろう？ 2
２．予防接種の種類と受け方 2
３．ワクチンってなんだろう？ 3
４．接種の間隔は…? 4
５．予防接種を受ける前に 5
６．定期の予防接種の知識と注意 7
小児用肺炎球菌ワクチン 7
Ｂ型肝炎ワクチン 8
ロタウイルスワクチン 9
五種混合ワクチン 10
ＢＣＧワクチン 12
麻しん･風しん混合ワクチン及び麻しんと風しんの単抗原ワクチン 13
水痘ワクチン 15
日本脳炎ワクチン 16
ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン 17
７．その他の予防接種 20
流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）ワクチン 20
インフルエンザワクチン 20
８．予防接種にでかける前に確認しましょう 21
９．予防接種を受けたあとは…? 21
１０.その他 21
●予防接種の副反応と救済制度について 23
●定期の予防接種指定医療機関 25
●予防接種の年齢一覧表 26

１．予防接種ってなんだろう？

予防接種は、病気に対する抵抗力（免疫）を作るものです。
赤ちゃんはお腹の中で、お母さんからある程度の抵抗力をプレゼントされますが、麻しん（はしか）や、おたふくかぜでは、生後8ヶ月から10ヶ月頃までに自然になくなります。そのために、自分で免疫を作る必要があり、これに役立つのが**予防接種**です。また、病気の予防やかかっても症状を軽くすませることができます。
集団に入ると、病気にかかる機会が多くなるため、その前に終わらせておきましょう。（別表のワクチン接種年齢表を参照ください）

２．予防接種の種類と受け方

定期予防接種の種類が年々増加してきています。接種年齢（月齢）や接種間隔が予防接種ごとに違いますので、間違いのないようにお受けください。
接種年齢は民法上の年齢となります。（例　1歳になるのは誕生日の前日となります。）
※保護者以外の方が同伴する時は委任状が必要です。委任状についてのご相談は保健センターまでご連絡ください。

≪定期予防接種一覧≫

小児用肺炎球菌	B型肺炎	ロタ	五種混合
二種混合	BCG	麻しん・風しん混合	水痘（水ぼうそう）
日本脳炎	ヒトパピローマ（子宮頸がん）		

＊ヒブワクチンと四種混合ワクチンは五種混合になりました

※全て個別で行う予防接種になりますので、P25の「指定医療機関」を参照ください。

３．ワクチンってなんだろう？

◎ワクチンは、予防接種に使う薬液のことです。

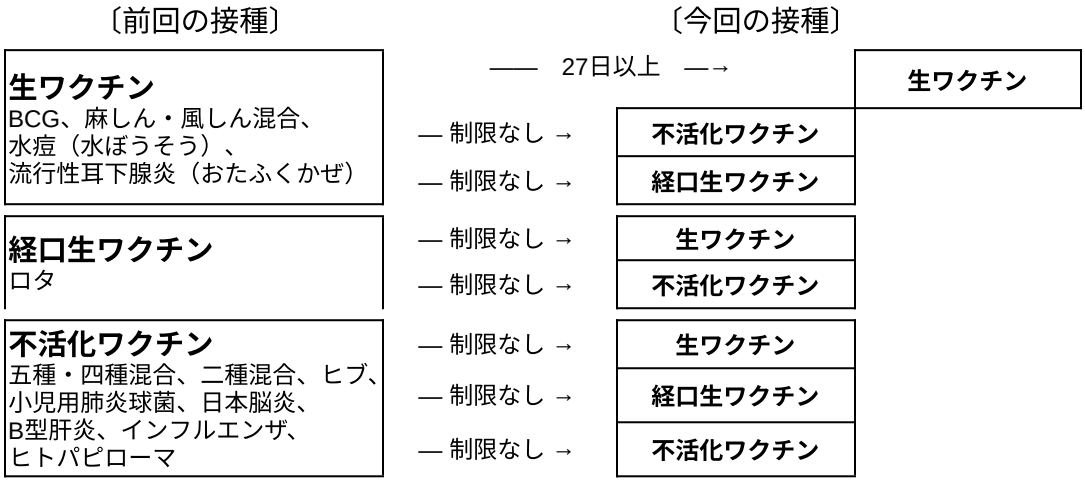
ワクチンの種類には生ワクチン・不活化ワクチン・トキソイドの3つがあります。

種類	特徴	主なワクチン
生ワクチン	生きた病原体の毒性を弱めたもので、一度病気にかかったかのような状態にして、免疫を作ろうとするものです。 接種後から体内で病原体が増え始めますのでそれぞれの性質によって、軽い発熱や発しんの症状がでることもあります。 十分な免疫ができるまで、約1ヶ月くらいかかります。	・ＢＣＧ ・麻しん（はしか） ・風しん ・水ぼうそう ・ロタ ・おたふくかぜ
ワクチン	病原体を殺し、免疫を作るために必要な成分を取り出して毒性をなくしたものです。 病原体は体の中で増えません。何回か接種して体に記憶させて、免疫を作ります。	・百日せき ・インフルエンザ ・Ｂ型肝炎 ・（ヒブ） ・小児肺炎球菌 ・日本脳炎 ・ヒトパピローマ
トキソイド	細菌が産生する毒性を取り出し、毒性をなくしたものです。 基本的には、不活化ワクチンと同じで何回か接種して免疫を作ります。	・ジフテリア ・破傷風

４．接種の間隔は…？

ワクチンを続けて接種する場合は、その効果、安全性のため、下記の期間をあけて接種してください。

ちがう種類のワクチンを続けて接種する場合の間隔



同一ワクチンを続けて接種する場合の間隔

ワクチン種類	接種間隔
五種・（四種混合）	20～56日間隔で3回
（ヒブ）	27～56日間隔 月齢で回数が異なる
小児用肺炎球菌	1歳未満27日以上の間隔 月齢で回数や間隔が異なる
水痘（水ぼうそう）	6～12ヶ月間隔で2回
日本脳炎	6～28日間隔で2回
B型肝炎	27日以上の間隔で2回
ロタ	27日以上の間隔で2回 ※ロタリックスの場合は27日以上の間隔で1回
ヒトパピローマ （子宮頸がん）	※接種間隔は開始年齢によって異なる（P17参照）

※上記の間隔は標準的期間となります。最長間隔の28日と56日及び12ヶ月を超えても 予防接種法の救済制度の対象となります。
（ただし、規定の接種年齢内となります）

５．予防接種を受ける前に

◎予防接種ワクチンは、毒性を弱めたとはいえ、細菌やウイルスの成分です。
お子さんの体調の良いときに受けるのが**大原則**です。

1．　このようなお子さんは受けられません

① 熱がある。
平熱が高いお子さんもいますので、普段から平熱を知っておくことが必要です。
一般的には、37.5度以上あると受けられません。

② 重い急性の病気にかかっている。
急性の病気で薬を飲む必要のある人は、その後の病気の変化、また予防接種の副反応もわかりませんので、その日は受けられません。

③ その日受ける予防接種に含まれる成分で、アナフィラキシーを起こした事がある。
アナフィラキシーというのは、接種後約30分以内に起こるアレルギー反応のことです。
症状は、発汗、急に顔がはれる、全身にじんましんがでる、吐き気、吐く、息が苦しいなどです。それに続いてショック状態（血圧が下がり、皮膚が白くなる、脈が速くなる等）になることもあります。

④ 4週間以内に予防接種で**生ワクチン**を受けている。
麻しん・風しん混合、おたふくかぜ、水ぼうそう、ＢＣＧなどです。

⑤ 感染症にかかり**治ってから4週間以上**たっていない。
感染症というのは、麻しん、風しん、おたふくかぜ、水ぼうそう、百日せき、突発性発疹、手足口病、溶連菌感染症等のうつる病気です。
※個別接種での実施の場合は、主治医の判断になりますので医師にご相談ください。

⑥ その他、医師が不適当な状態と判断した場合。

２．このようなお子さんは、医師との相談が必要です

これに該当すると思われる人は、主治医の先生に診てもらい、その先生のところで接種するか、あるいは診断書又は意見書をもらってから接種に行きましょう。

① 心臓病、腎臓病、肝臓病や血液の病気などで治療を受けている。

② 発育があまり良くなく、医師や保健師の指導を継続して受けている。

③ 未熟児で生まれて発育がおそい。

④ かぜのひきはじめと思われる。
体の状態がはっきりするまで、さけた方がよいでしょう。

⑤ 前に予防接種を受けたとき、2日以内に発熱、発しん、じんましんなどアレルギーを思わす症状がみられた。

⑥ 薬の投与を受けて皮膚に発しんが出たり、体に異常がみられた。

⑦ 今までにけいれん（ひきつけ）を起こしたことがある。
けいれんのおきた年齢、そのとき熱があったか、熱がなかったか、その後おこしているか、受けるワクチンの種類はなにかなどで条件が異なります。必ずかかりつけの医師と事前によく相談しましょう。

⑧ 過去に中耳炎や肺炎などによくかかり、免疫状態を検査して、異常を指摘されたことがある。

⑨ 接種液の成分に対して、アレルギーがある。
各予防接種によって接種液の成分はちがいますので、各項を参照ください。

⑩ 潜伏期にある。
家族や遊び仲間の間で、麻しん、風しん、おたふくかぜ、水ぼうそうなどが流行しているときで、まだその病気にかかった事がなく予防接種も受けていない。

⑪ガンマグロブリン（血液製剤の一種）の注射を受けて、一定の期間がたっていない。



６．定期の予防接種の知識と注意

小児用肺炎球菌ワクチン



～ 細菌性髄膜炎の予防 ～

・小児の肺炎球菌について

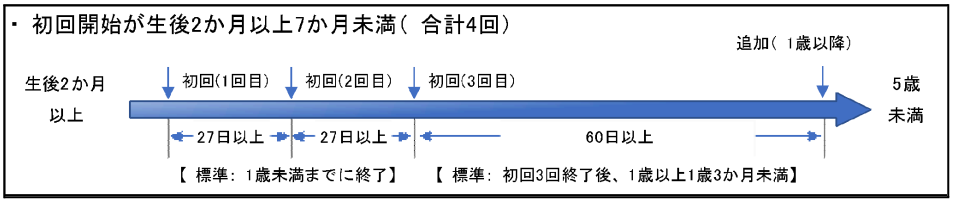
肺炎球菌は口の中や鼻の粘膜、また、腸管など身体の中に常在する細菌です。通常は感染を起こしませんが、かぜなどで免疫力が低下した場合に、感染を起こし小児では細菌性髄膜炎を発症する方がいます。

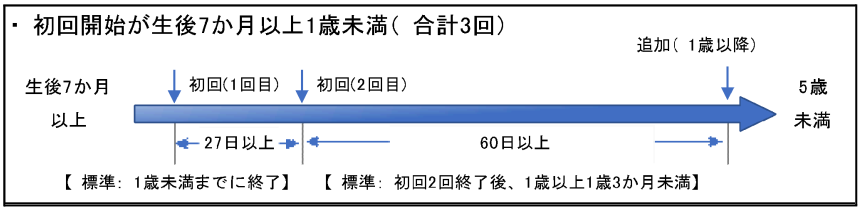
・小児用肺炎球菌ワクチンについて

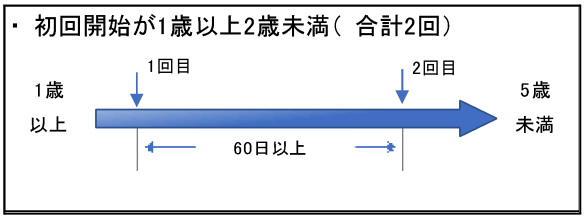
不活化ワクチンで、皮下注射します。添加物として塩化ナトリウム及びリン酸アルミニウムが使用されています。

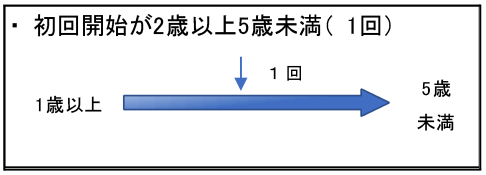
・接種方法について

月齢等により接種回数及び接種間隔が異なります。1歳未満の場合の接種間隔は27日以上となっています。接種回数や間隔を確認し接種を進めましょう。









・注意点

他のワクチンと接種の時期が重なっているため、医師と相談しながら接種をしてください。

・副反応・症状

P23にて副反応・症状についてまとめておりますので、接種前に必ずご確認ください。

B型肝炎ワクチン

～ B型肝炎の予防 ～

・B型肝炎について

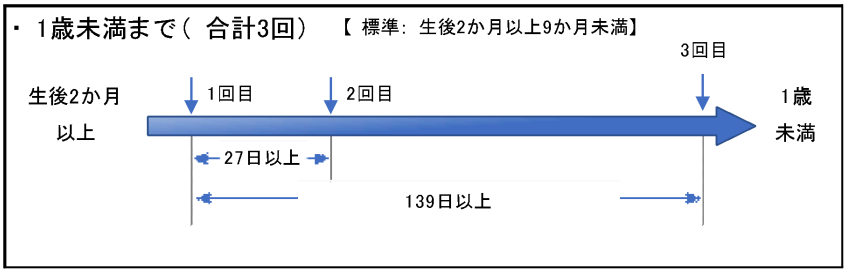
B型肝炎ウイルスが、血液や体液を介して起こる肝臓の病気のことです。感染した時期や健康状況によって、一過性の感染と生涯にわたり感染が持続するものに大別されます。

・B型肝炎のワクチンについて

不活化ワクチンを皮下注射します。
本剤は、組換えDNA技術を応用し、酵母により賛成されたHBs抗原を含む液にアルミニウム塩を不溶性にした液材です。
添加物として水酸化アルミニウム、チメロサール、リン酸水素ナトリウム等が使用されています。

・接種方法について

生後2ヶ月から1歳未満で接種することができます。
接種量は10歳未満まで0.25mlです。ただし、母子感染予防の対象者については定期接種の対象となりません。1回目接種後27日以上の間隔で2回目を接種、1回目接種後139日以上の間隔で3回目を接種となります。



・副反応・症状

P23にて副反応・症状についてまとめておりますので、接種前に必ずご確認ください。

ロタウイルスワクチン

～ロタウイルスの予防～

・ロタウイルスについて

乳幼児の冬の急性下痢症の最も主要な原因がロタウイルスによる感染症です。

秋から年末にかけてはノロウイルスが、1月から4月にかけてはロタウイルスが主に流行します。生後6ヶ月から2歳の乳幼児に多くみられ、5歳までにほとんどの小児が経験します。米のとぎ汁のような白色の下痢便が特徴で、そのため白痢あるいは仮性小児コレラとも言われていました。

主な症状は嘔吐と下痢ですが、ノロウイルスよりも発熱を伴う場合が多く、重症度が高いとされています。

・ロタウイルスのワクチンについて

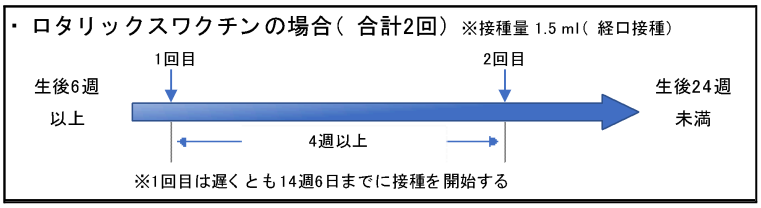
経口生ワクチンです。現在日本で認可されているロタウイルスワクチンは2種類です。

ワクチンによって、接種月齢及び間隔や回数が異なり、添加物及び製造過程での内容物についても異なります。接種の希望をするときには、内容を確認の上お受けください。

・接種方法について

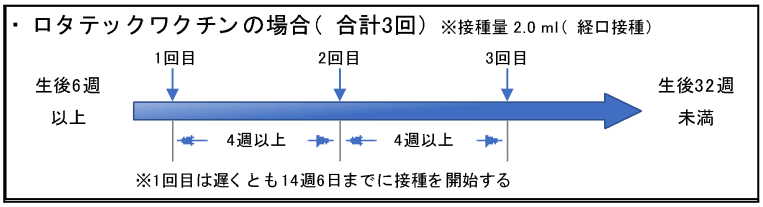
（ロタリックスワクチンの場合）

生後2ヶ月から生後24週まで接種することができます。接種回数は1.5mlを2回で、生後14週6日までに初回接種を終了させ、初回接種から27日以上の間隔で1回接種します。



（ロタテックワクチンの場合）

生後2ヶ月から生後32週まで接種することができます。接種回数は2mlを3回で、生後14週6日までに初回接種を終了させ、初回接種から27日以上の間隔で2回接種します。



・注意点

腸の中で免疫をつくりますので、下痢をしている方はうけられません。

また、接種後10日程度便の中にウイルスが排泄されるため、オムツ交換をした時には、石鹸などでよく手を洗ってください。

・副反応・症状

P23にて副反応・症状についてまとめておりますので、接種前に必ずご確認ください。

五種混合ワクチン



～ 百日せき･ジフテリア･破傷風･ポリオ・ヒブ（細菌性髄膜炎）の予防 ～

・百日せきについて

初めは風邪のような症状ですが、激しいせきが1～2ヶ月も続きます。特に夜間に目立ちます。息を吸い込むときヒュウヒュウと音がするのが特徴です。赤ちゃん（特に5～6ヶ月以下）がかかると重症になりやすく、肺炎や脳炎を起こすこともあります。

・ジフテリアについて

38度前後の熱がでて、のどが腫れます。偽膜と呼ばれる灰白色の膜のようなものがのどにつきます。重症になると、偽膜が広がり呼吸困難や、チアノーゼなどを起こし、死亡することもあります。毒素が、血流にのって全身に回ると、心筋や神経をおかすこともあります。

・破傷風について

けがをしたときに、土の中にいる破傷風の菌が、傷口に入って起こる病気です。菌が入ると、傷のある手や足に緊張感が生じます。全身がだるくなったり、筋肉の緊張、言葉がしゃべりにくくなったり、発熱、けいれんなどの症状が出ます。菌の毒素が全身に回ると死亡することもあります。子供は泥遊びや外などで裸足になったりすることがありますので十分注意が必要です。この病気は、人から人へは感染しません。

・ポリオについて

ポリオのウイルスが脊髄の細胞に入る病気です。手足の運動神経がマヒし、重症の場合は呼吸困難で死亡したり、重い障害が残ります。現在日本では、ほとんどこの病気の発症はありませんが、東南アジアの一部の国では、まだ流行があるので油断はできません。

・ヒブについて

乳幼児の細菌性髄膜炎の原因の半分以上が、この「インフルエンザ菌ｂ型」という細菌で、略して「ヒブ」という菌で起こっています。冬に流行する「インフルエンザウイルス」とは全く別のものです。この菌は脳や脊髄を包んでいる髄膜に感染して炎症を起こします。初期の症状は、発熱や嘔吐、不機嫌、けいれん等で、かぜなどの他の病気と症状が似ているため、早期に診断することが難しい病気です。「ヒブ」は、他の多くの細菌やウイルスとは違い感染しても抗体ができず繰り返し感染します。

・接種方法について

五種混合ワクチン（百日せき･ジフテリア･破傷風･ポリオ・ヒブ）は、生後２ヶ月以上7歳6ヶ月未満の間に計４回接種します。

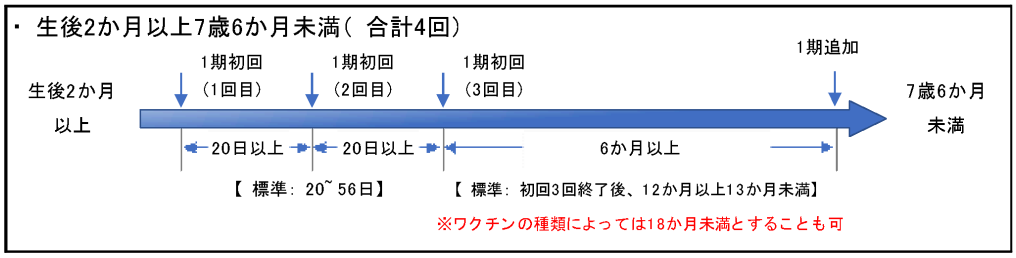
四種混合ワクチンを接種された方は、原則、同じワクチンを接種することとなっていましたが、四種混合ワクチンは製造中止となっているため、五種混合ワクチンで接種します。

また、二種混合ワクチン（ジフテリア･破傷風）は、11歳から13歳になるまでに2期として、１回接種します。

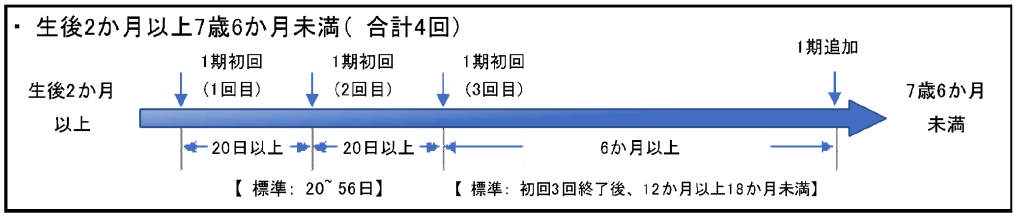
・五種混合ワクチンについて

不活化ワクチン2種類（百日せきとポリオ）と、トキソイド2種類（ジフテリアと破傷風）と、インフルエンザ菌b型を混ぜたものを皮下または筋肉内に注射します。日本で認可されているワクチンは2種類ありますが、どちらもウシ、ウマ、ブタ等の由来成分が含まれています。また、添加物や安定剤としてホルマリン等が含まれています。

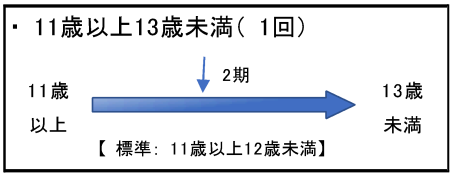
【五種混合】



【四種混合】⇒現在は五種混合となっています
四種混合ワクチン：百日せき・ジフテリア・破傷風・ポリオ



【二種混合】



・注意点

接種する回数が多いので、接種もれに注意しましょう。接種間隔があきすぎた時は医師に相談してください。接種後には、注射のあとが固くなったり、赤く腫れたりする事がありますが、2～3日で治ります（冷たいタオルで冷やしてください）。ただし、接種の回数が増すごとに腫れやすくなるので、腕を替えて接種しましょう。

・副反応・症状

P23にて副反応・症状についてまとめておりますので、接種前に必ずご確認ください。

ＢＣＧワクチン

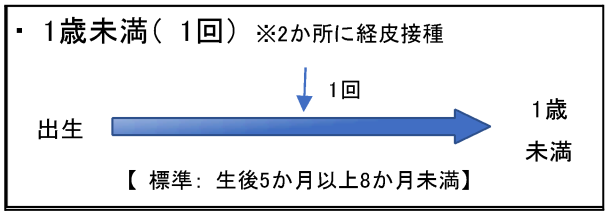
～ 結核の予防 ～

・結核について

結核の菌が肺の中に入って病巣を作り、せきやたんまた微熱がでる病気です。特に赤ちゃんがかかると、抵抗力（免疫）が弱いので、重症になりやすく重い後遺症を残すこともあります。現在でも、新たに1万7千人程が結核にかかり、2千3百人程が命を落としています(H30年度ﾃﾞｰﾀ)。網走では、昭和60年に結核の集団感染がありました。まだまだ、気を抜けない病気の一つです。

・ＢＣＧのワクチンについて

牛にかかる結核菌を弱めた生ワクチンです。管針法といって、スタンプ方式で上腕の2カ所に押しつけて接種します。



・注意点

接種したところは、日光のあたらないところで自然乾燥させてから衣服を着ます。

１時間以上経過すれば、入浴ができます。3～4週間位（個人差があります）で針跡がポツポツと赤くなり、その先に一部白くうみを持ちますが、その後かさぶたになります。ひっかいたり、カサブタを無理にはがさないようにしてください。通常3ヶ月くらいできれいになります。これは、正常な反応でＢＣＧがついた証拠です。ばんそうこうをはったりせず、乾燥させて清潔を保ってください。

・副反応・症状

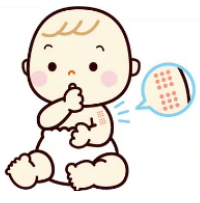
ＢＣＧ接種後、腋窩リンパ節が腫れることがありますが、自然に消失しますので特別な措置は必要ありません。接種部位がひどくはれたり、化膿したり、あるいは発熱したときは、医師の診断を受けてください。

・コッホ現象

10日以内に針痕がポツポツと赤くなり、黄色く膿をもち、2～4週間後に瘢痕になり治癒する反応が起こる事があり、これをコッホ現象といいます。

結核感染後にＢＣＧ接種をすると反応が強く現われる事があります。

このように早期のうちに反応が現われた時は､網走市保健センター及び医療機関で接種された場合は医師にご連絡ください。



麻しん･風しん混合ワクチン　及び
麻しんと風しんの単抗原ワクチン

～ 麻しん（はしか）と風しんの予防 ～

・麻しんについて

感染すると、発熱、下痢、嘔吐で始まります。口の中の白い斑点、全身の発疹などの、症状が現れます。子供がかかると重症化しやすく、高熱やせきで体力がおち、まれに肺炎や脳炎を、起こすことがあります。

・風しんについて

症状は全身の発疹や、リンパ節の腫れです。
『三日はしか』とも呼ばれていますが、年長児や大人がかかると、一般的に重症になりやすく三日では治らないことが多いです。妊娠3～4ヶ月の女性が風しんにかかると、先天性風しん症候群の子供が生まれる危険性が高いです。

・麻しん・風しんのワクチンについて

麻しんと風しんワクチンの混合で弱毒性の生ワクチンを皮下注射します。
添加物として、カナマイシン（抗生物質）、エリスロマイシン（抗生物質）が使用されています。

・麻しんのワクチンについて

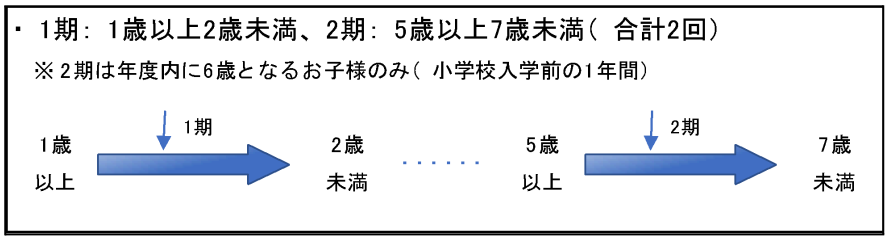
弱毒性の生ワクチンを皮下注射します。添加物として、ゼラチン、カナマイシン（抗生物質）が使用されています。ただし、網走市が使用しているワクチンには、添加物としてゼラチンを使用していないもので接種しております。

・風しんのワクチンについて

麻しんのワクチンと同じく、弱毒性の生ワクチンを皮下注射します。添加物として、カナマイシン、エリスロマイシン（共に抗生物質）が使用されています。

・接種方法について

母親からの免疫がなくなると感染するので、1歳になったらなるべく早く接種しましょう。



・注意点

妊婦は受けてはいけません。また、あらかじめ1ヶ月間避妊した後接種するとともに、接種後2ヶ月は避妊が必要です。

・副反応・症状

P24にて副反応・症状についてまとめておりますので、接種前に必ずご確認ください。

※基本的には麻しん･風しん混合ワクチンで接種します。
麻しん及び風しんに罹患した場合は、罹患していない方の予防接種を受けることもできます。

水痘ワクチン

～ 水ぼうそうの予防 ～

・水ぼうそうについて

発熱とともに、全身に不ぞろいの赤い湿疹ができます。この湿疹が24時間以内に水ぶくれとなり、その後カサブタ状になって治ります。湿疹の発生前からカサブタになるまで感染します。

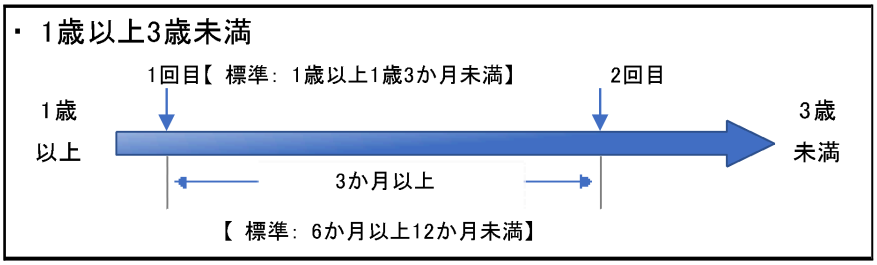
・水ぼうそうのワクチンについて

弱毒化した生ワクチンを皮下注射します。
本剤は、製造工程でウシの血液由来成分とブタの膵臓由来成分を使用いています。
また、添加物としてカナマイシンとエリスロマイシンなどが使用されています。

・接種方法について

1歳から3歳未満で2回接種します。水ぼうそうの母子免疫は、麻しんほど強力ではないといわれているので、1歳になったらなるべく早く接種しましょう。

また、悪性腫瘍や白血病、ステロイド療法を受けている等のお子さんが水ぼうそうにかかると健康児にくらべ重症化しやすいため、接種することをおすすめします。



・副反応・症状

P24にて副反応・症状についてまとめておりますので、接種前に必ずご確認ください。

日本脳炎ワクチン

～ 日本脳炎の予防 ～

・日本脳炎について

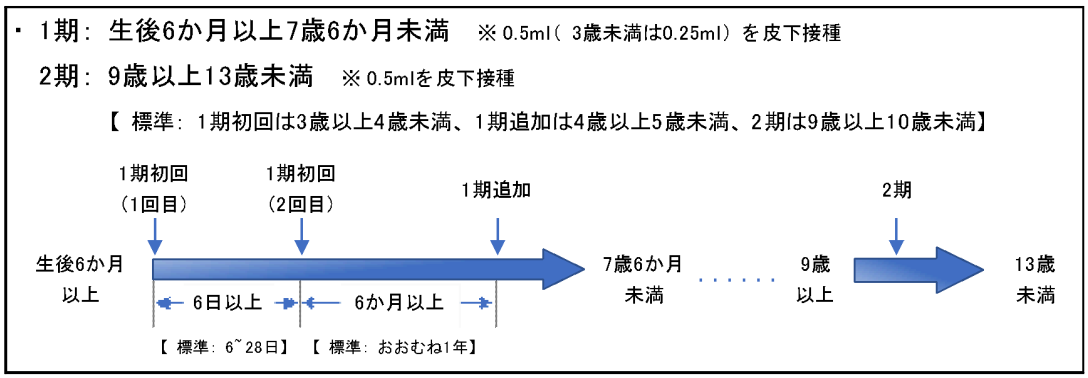
日本脳炎ウイルスによって感染します。ウイルスが蚊（コガタアカイエカ）によって媒介されます。症状は、高熱、頭痛、吐き気、意識障害、けいれんなどです。
ウイルスは、北海道では発生がありませんし、人から人へは感染しませんが、進学や就職などで本州に滞在される場合など、感染の可能性は「ゼロ」ではありません。
北海道にいるから「大丈夫」と思わずに、北海道でも定期接種として始まりましたので、接種機会を逃さないようにしましょう。

・日本脳炎のワクチンについて

不活化ワクチンを皮下注射します。添加物として、ウシの血液由来成分及びウシとヒツジの胆汁由来成分、ブタの膵臓由来成分等が使用されています。

・接種方法について

各年度により、優先接種対象者を基本に接種します。
1期初回2回：3歳になる年度に6～28日の間隔で2回接種
1期追加：4歳になる年度で1期初回2回目の接種から概ね1年程度で1回接種
2期：9歳以上13歳未満に1回接種
合計4回接種します。
※標準接種年齢
1期初回：3歳～4歳未満　1期追加：4歳～5歳未満　2期：9歳～10歳未満
接種量：3歳未満で0.25ml　　3歳以上で0.5ml
※蚊が発生する時期に、感染地域に長期滞在される場合は、保健センターにご連絡ください。



・副反応・症状

主にせきや鼻水がでたりします。また、接種したところが赤くなることがあります。きわめてまれに、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎または血小板減少性紫斑病の症状が出たりします。

ヒトパピローマウイルス（HPV）ワクチン

～ 子宮頸がんの予防 ～

・ヒトパピローマウイルス（HPV）について

HPVとはヒトパピローマウイルス（HumanPapillomaVirus）の略で、「子宮頸がん」の原因とされるウイルスのことです。HPVは、主に性交渉によって感染し、性交渉経験がある約80%の女性が50歳までに一度は感染するといわれている、ごくありふれたウイルスです。

・子宮頸がんについて

子宮頸がんとは、子宮入り口の「子宮頸（けい）部」と呼ばれる部分に発生するがんの事です。子宮頸がんは他のがんと違い、「HPV」というウイルス感染によって引き起こされることがわかっています。すなわち、HPVに感染していなければ子宮頸がんにはなる可能性は極めて低いと考えられています。

・子宮頸がんのワクチンについて

不活化ワクチン（９価）を筋肉内注射します。女性の子宮頸がんや尖圭コンジローマなど、HPV疾患を予防するワクチンです。ワクチン接種により、HPVウイルスの感染を防ぐ抗体を事前に作ります。

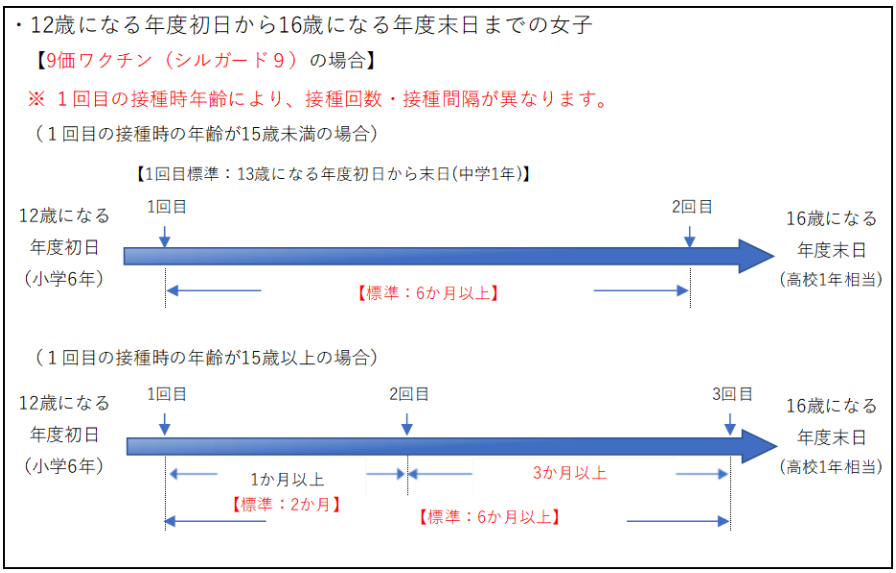
・接種方法について

接種の推奨年齢は、小学6年生～高校1年生相当の女子です。
（標準接種期間は中学１年生の間）
令和８年度から、定期接種に使用するワクチンは、９価ワクチンのみとなりました。

９価（シルガード９）：１回目の接種時年齢によって、接種回数および接種間隔が異なりますので、接種時の年齢を確認してから接種してください。

【１回目の接種時年齢が15歳未満の場合】
6か月の間隔をおいて２回目を接種します。（計２回接種）

【１回目の接種時年齢が15歳以上の場合】
２か月の間隔をおいて２回接種した後、1回目の接種から６か月の間隔をおいて１回接種します。（計３回接種）



・副反応・症状

以下のようなリスクがあります。（厚生労働省リーフレットより）

ＨＰＶワクチン接種後には
接種部位の痛みや腫れ、赤みなどが起こることがあります

頻度は不明ですが、重い副反応（アナフィラキシー、ギラン・バレー症候群、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、 免疫性血小板減少症）※1が起こることがあります。

発生頻度	9 価ワクチン（シルガード ®9）
50%以上	疼痛＊
10～50%未満	腫脹＊、紅斑＊、頭痛
1～10%未満	浮動性めまい、悪心、下痢、そう痒感＊、発熱、疲労、内出血＊など
1%未満	嘔吐、腹痛、筋肉痛、関節痛、出血＊、血腫＊、倦怠感、硬結＊など
頻度不明	感覚鈍麻、失神、四肢痛など

シルガード®9添付文書（第3版）より改編　　＊接種した部位の症状

因果関係があるかどうかわからないものや、接種後短期間で回復した症状をふくめて HPVワクチン接種後に生じた症状として報告があったのは、接種１万人あたり約４人です。 このうち、報告した医師や企業が重篤と判断した人は接種１万人あたり約２人です。※2、※3

※1 アナフィラキシー：呼吸困難、じんましん等、ギラン・バレー症候群：手足の力が入りにくい等、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）:頭痛、嘔吐、意識低下等、免疫性血小板減少症:紫斑、鼻出血、口腔粘膜出血等

※2 2025年度まで定期接種に用いていた２価または４価ワクチン（サーバリックス®またはガーダシル®）は１万人あたり９人です。 このうち報告した医師や企業が重篤と判断した人は、接種１万人あたり約５人です。

※3 HPVワクチン接種後に生じた症状として報告があった数（副反応疑い報告制度における報告数）は、企業からの報告では販売開始から、医療機関からの報告では平成22（2010）年11月26日から、令和6（2024）年9月末時点までの報告の合計。
出荷数量より推計した接種者数（サーバリックス®およびガーダシル®は422万人、シルガード®9は177.2万人）を分母として1万人あたりの頻度を算出。

※4 重篤な症状には、入院相当以上の症状などがふくまれていますが、報告した医師や企業の判断によるため、必ずしも重篤でないものも重篤として報告されることがあります。

〈 HPVワクチン接種後に
生じた症状の報告頻度 〉

1万人あたり約4人※1

※1 2025年度まで定期接種で用いていたサーバリックス®またはガーダシル®1万人あたり約9人



〈 HPVワクチン接種後に
生じた症状（重篤）の報告頻度 〉

1万人あたり約2人※2

※2 2025年度まで定期接種で用いていたサーバリックス®またはガーダシル®1万人あたり約5人

<痛みやしびれ、動かしにくさ、不随意運動について>

- ワクチンの接種を受けた後に、広い範囲に広がる痛みや、手足の動かしにくさ、不随意運動（動かそうと思っていないのに体の一部が勝手に動いてしまうこと）などを中心とする多様な症状が起きたことが報告されています。
- この症状は専門家によれば「機能性身体症状」（何らかの身体症状はあるものの、画像検査や血液検査を受けた結果、その身体症状に合致する異常所見が見つからない状態）であると考えられています。
- 症状としては、①知覚に関する症状（頭や腰、関節等の痛み、感覚が鈍い、しびれる、光に対する過敏など）、②運動に関する症状（脱力、歩行困難、不随意運動など）、③自律神経等に関する症状（倦怠感、めまい、睡眠障害、月経異常など）、④認知機能に関する症状（記憶障害、学習意欲の低下、計算障害、集中力の低下など）などいろいろな症状が報告されています。
- 「HPVワクチン接種後の局所の疼痛や不安等が機能性身体症状をおこすきっかけとなったことは否定できないが、接種後1か月以上経過してから発症している人は、接種との因果関係を疑う根拠に乏しい」と専門家によって評価されています。
- また、同年代のHPVワクチン接種歴のない方においても、HPVワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」を有する方が一定数存在することが明らかとなっています。
- このような「多様な症状」の報告を受け、様々な調査研究が行われていますが、「ワクチン接種との因果関係がある」という証明はされていません。
- ワクチンの接種を受けた後や、けがの後などに原因不明の痛みが続いたことがある方は、これらの状態が起きる可能性が高いと考えられているため、接種については医師とよく相談してください。

※接種を検討される方は、医師への相談や、上記内容をよくご覧いただき、ワクチンの有効性等について十分にご理解いただいた上で判断していただきますようお願いいたします。

7．その他の予防接種

流行性耳下腺炎（おたふくかぜ）ワクチン



～ おたふくかぜの予防 ～

・おたふくかぜについて

耳下腺の腫れと痛みが見られる比較的かるい病気ですが、まれに髄膜炎を起こすことがあります。また思春期以降の子がかかると、睾丸炎、卵巣炎を起こして不妊症になる事があります。

・おたふくかぜのワクチンについて

弱毒性の生ワクチンを皮下注射します。

・接種方法について

1歳を過ぎると接種できます。

・副反応・症状

接種後、2～3週間後に一過性の耳下腺の腫れや発熱が、2～3%の人みられます。
また、ごくまれに髄膜炎の報告もあります。

インフルエンザワクチン



～ インフルエンザの予防 ～

・インフルエンザについて

インフルエンザウイルスによって感染します。毎年初冬から春先にかけて流行します。

症状は、突然の発熱、のどの痛み、せきで始まります。他の風邪より全身症状が強いのが特徴です。 重症になると、肺炎や脳炎を起こしたり、死亡することもあります。

・インフルエンザワクチンについて

不活化ワクチンです。成分として卵が含まれます。

・接種年齢と接種方法について

流行が予想されるときに接種するので、年齢は問いません。
年齢によって接種間隔や回数が異なります。
6ヶ月以上3歳未満：接種量0.25ml　　3歳以上：接種量0.5ml
接種間隔：2～4週間の間隔

・副反応・症状

注射局所の反応がある程度で、発熱、頭痛などの全身症状はまれです。

任意の予防接種ですが、6か月～18歳(高校3年生相当)のお子さんは、費用の助成があります。
(10月頃の広報等でご確認ください)

８．予防接種にでかける前に確認しましょう

①お子さんの体調は良いですか？

②受ける予防接種の必要性や副反応について、理解できましたか？
　わからないことがあれば医師に相談しましょう。

③母子手帳は持ちましたか？

④お子さんに同伴する方は保護者の方ですか？
　保護者以外の方が同伴する場合は、委任状が必要です。



９．予防接種を受けたあとは…？

1　予防接種を受けたあと30分は、接種会場でお子さまの様子を観察するか、医師に連絡をとれるようにしておきましょう。

2　接種後『生ワクチン』では2～3週間、『不活化ワクチン』では24時間は、副反応の出現に注意しましょう。

3　入浴は差し支えありませんが、注射した部位を強くこする事はやめましょう。

④　接種当日は、いつも通りの生活でかまいませんが、激しい運動は避けましょう。

１０.そ の 他

１．接種時期に長期不在になる場合

定期の予防接種は、住民票のある市町村の実施方法に従って接種することになっています。従って、何らかの理由で網走市での接種ができないときは、保健センターにご相談ください。

２．副反応がおこった場合

予防接種のあと、まれに副反応が生じることがあります。また、予防接種と同時に、他の感染症がたまたま重なって発症する事があります。予防接種をうけた後、注射部位のひどい腫れ、高熱、ひきつけ等の症状があったら、まず病院受診する等の処置をしたあと保健センターへ連絡してください。

３．長期療養の病気で定期の予防接種の対象年齢で接種を受けることができなかった場合

長期療養のため定期の予防接種を受けることができなかった場合は、定期接種として受けることができるようになりました。予防接種の種類によって接種期限がありますので、詳しくは網走市保健センターまでご連絡ください。

４．その他、何かわからない事があれば

このパンフレットを読んで、ご不明な点がありましたら、お気軽にご相談下さい。

◎ 年齢（月齢）参考資料

予防接種法の接種年齢は、民法上の年齢（月齢）となりますので、誕生日の前日に年齢が繰り上がることになります。

誕生日に年齢が繰り上がると「閏年」や「大小の月」のため、誕生日付がない場合が生じてしまうため、法令の上では、＂前日に繰り上がり日＂を規定しています。

9月1日生まれの方の場合

到達齢	繰り上がり日	接種期限
生後1か月	9月30日	
生後2か月	10月31日	
生後3か月	11月30日	
生後3年	8月31日	1歳未満までの接種期限の場合は8月31日までの接種となります
生後2年	8月31日	2歳未満までの接種期限の場合は8月31日までの接種となります
生後1年6か月	2月28日 （閏年は2月29日）	
生後5歳	8月31日	5歳未満までの接種期限の場合は8月31日までの接種となります
生後7歳6か月	2月28日 （閏年は2月29日）	7歳6か月未満までの接種期限は2月28日（閏年は2月29日）までの接種となります。

●予防接種の副反応と救済制度について

予防接種は、特定の病気に対する抵抗力（免疫）をつくって、その病気を予防する助けとなるものです。

この予防接種の後に、熱が出たり、はれたりすることがあります。このような症状を副反応と言います。

副反応というと「とてもこわいもの」と思われるかもしれませんが、必ずしもそうではありません。そのほとんどが一時的な症状で、本当にかかったリスクに比べると軽く、重度の副反応はきわめてまれです。

以下の表にて、ワクチンの種類ごとの副反応・症状をまとめています。予防接種の際は必ず、副反応・症状をご確認ください。

ワクチン種類	副反応・症状
ヒブワクチン 【不活化ワクチン】	局所反応として発赤、腫脹、硬結、疼痛、全身反応として発熱、不機嫌、食欲不振、嘔吐、下痢、不眠、傾眠等がみられることがあります。
小児用肺炎球菌ワクチン 【不活化ワクチン】	接種部位の局所反応として腫脹、紅斑、硬結等がみられますが、おおむね軽度で自然に回復します。その他、全身的な副反応として、発熱、易刺激性、傾眠状態がみられることがあります。
Ｂ型肝炎ワクチン 【不活化ワクチン】	主な副反応は倦怠感、頭痛、局所の腫脹、発赤、疼痛等があります。ワクチンの種類によっては過敏症（発熱、発疹、じんましん、紅斑、そう痒等）が現れたとの報告があります。
ロタワクチン	
ロタテック 【経口生ワクチン】	接種後14日間に報告された主な副反応は、下痢、嘔吐、胃腸炎、発熱です。また、重大な副反応で、腸重積症、アナフィラキシー（頻度不明）が報告されています。
ロタリックス 【経口生ワクチン】	接種後８日間に報告された主な副反応は、易刺激性、下痢、咳嗽/鼻漏です。また、重大な副反応で、腸重積症、血便排泄等が報告されています。
四種混合ワクチン （百日せき ジフテリア 破傷風 ポリオ） 【不活化ワクチン】	接種部位の副反応として紅斑、硬結、腫脹、接種部位以外の副反応として発熱、気分変化、下痢、鼻漏、咳嗽、発疹、食欲減退、咽頭発赤、嘔吐がみられます。重大な副反応として、極めて稀にショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれん等がみられることがあります。接種部位の副反応は数日で自然に治まりますが、硬結は縮小しながらも数か月は持続することがあります。発熱のピークは接種翌日に多くみられ、７日ほど持続することもあります。
五種混合ワクチン （百日せき ジフテリア 破傷風 ポリオ ヒブ） 【不活化ワクチン】	接種部位の副反応として紅斑、硬結、腫脹、接種部位以外の副反応として発熱、気分変化、下痢、鼻漏、咳嗽、発疹、食欲減退、咽頭紅斑、嘔吐がみられます。重大な副反応として、極めて稀にショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、脳症、けいれん等がみられることがあります。接種部位の副反応は数日で自然に治まりますが、硬結は縮小しながらも数か月は持続することがあります。副反応の発現割合は、接種部位の紅斑、発熱、接種部位の硬結・腫脹、気分変化、下痢の順で多いが、これらのほとんどが数日後には回復しています。

ワクチン種類	副反応・症状
麻しん風しん混合ワクチン 【注射生ワクチン】	副反応の主なものは発熱、発疹です。１回目の接種後にみられる発熱や発疹は、接種後13日以内に多く見られます。接種直後から数日中に過敏症状と考えられる発熱、発疹、そう痒等がみられることがありますが、これらの症状は１～３日で治癒します。２回目の接種では発熱や発疹の頻度は低いですが、接種翌日の局所反応が多いです。稀にショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎、脳炎・脳症、けいれん等がみられることがあります。
麻しんワクチン 【注射生ワクチン】	比較的発熱率の高いワクチンです。ウイルスが体内で増殖する時期（接種後５～14日）に発熱や麻疹様の発疹がみられることがあります。発熱は通常1～2日以内に消失します。発疹は少数の紅斑や丘疹から自然麻疹に近い場合もあります。その他に局所反応、熱性けいれん、じんましん等がみられますがほとんど一過性のものです。頻度は不明ですが、血小板減少性紫斑病、急性散在性脳脊髄炎、脳炎・脳症の報告もあります。
風しんワクチン 【注射生ワクチン】	稀に発疹、じんましん、紅斑、そう痒、発熱、リンパ節の腫脹、関節痛等がみられることがあります。重篤な副反応として、ショック、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病が報告されています。
水痘ワクチン （みずぼうそう） 【不活化ワクチン】	副反応の主なものは接種局所の発赤・腫脹、発熱、発疹です。その他、稀に接種直後から翌日にかけて、過敏反応（発疹、じんましん、紅斑、そう痒、発熱等）が現れることがあります。重大な副反応として、アナフィラキシー、血小板減少性紫斑病、帯状疱疹を伴った無菌性髄膜炎があります。接種後１～３週間ごろに、発熱、発疹、水疱性発疹が発現することがありますが、一過性で通常数日中に消失します。
二種混合ワクチン （ジフテリア 破傷風） 【不活化ワクチン】	接種部位の副反応として局所反応（発赤、腫脹、疼痛等）がみられます。稀に重篤な副反応として接種後にアナフィラキシー等がみられることがあります。また、血管迷走神経反射による失神が起こることがあります。

【引用：予防接種に関するQ&A集（一般社団法人 日本ワクチン産業協会）】

その他に、ＢＣＧ、日本脳炎、子宮頸がんのワクチン接種があります。ＢＣＧワクチンおよび子宮頸がんワクチンの副反応・症状については、接種時に配布する予防接種説明書にてお知らせしております。日本脳炎ワクチンの副反応・症状については、接種対象となった際に配布する個別通知にてお知らせしております。

- **予防接種健康被害救済制度について**

定期の予防接種又は臨時の予防接種を受けた者が、疾病にかかり、障害の状態となり又は死亡した場合において、予防接種を受けた事によるものであると、厚生労働大臣が認定したときは、救済制度の対象となります。

定期の接種は、予防接種法で定められている規定で接種をしています。
予防接種法の規定から外れている場合は、予防接種健康被害救済制度の対象とならないことがありますので、年齢や接種間隔などを今一度ご確認の上、接種してください。

●定期の予防接種指定医療機関

＜令和8年11月現在＞

医療機関	予　約 締切日	接　種　時　間	予　防　接　種
網走厚生病院 北６条西１丁目 TEL 43-3157	３日前までの 14：00 ～ 16：00 （水曜日は除く）	水　受 付： 13:30～ 接 種：受付開始後～ ※BCG接種：毎週月曜15:00～ （1日4名まで）	Ｂ型肝炎・小児用肺炎球菌 ロタテック・五種混合 BCG・水痘・麻しん風しん混合 日本脳炎・二種混合 子宮頸がん
金　川　医　院 南２条西２丁目 TEL 43-2884	2日前まで	月～金　9:00～16:30 土　9:00～11:30	Ｂ型肝炎・小児用肺炎球菌 ロタテック・五種混合 ＢＣＧ・水痘・麻しん風しん混合 日本脳炎・二種混合 子宮頸がん
南5条クリニック 藤田整形外科内科 南5条西2丁目 TEL 44-7305	2日前まで	月火木金　9:00～16:30 水土　9:00～11:30 （第3土曜日は休診）	日本脳炎・二種混合 子宮頸がん （小学生以上）
なかむら内科 ハートクリニック 潮見7丁目14-7 TEL 67-5111	2日前まで	月火水金　9:00～11:30 14:00～17:00 木・土(第1･3･5) 9:00～11:30	日本脳炎・二種混合 (小学生以上)
こまばクリニック 駒場北4丁目1-1 TEL 67-5310	2日前まで	水　8:30～11:00 月火木金　15:00～16:30	麻しん・風しん混合（年長児以上） 日本脳炎・二種混合（小学生以上）
さらしな内科 クリニック 駒場南３丁目7-22 TEL 61-6116	2日前まで	月水木金 15：00～18：00	麻しん風しん混合（年長児以上） 日本脳炎・二種混合 (小学生以上)
小町こども クリニック 潮見5丁目120-5 TEL 67-5541	1週間前まで 令和8年11月19日 （木）より開始	火水木金 9:00～12:00 15:00～18:00	Ｂ型肝炎・小児用肺炎球菌 ロタテック・五種混合 BCG・水痘・麻しん風しん混合 日本脳炎・二種混合

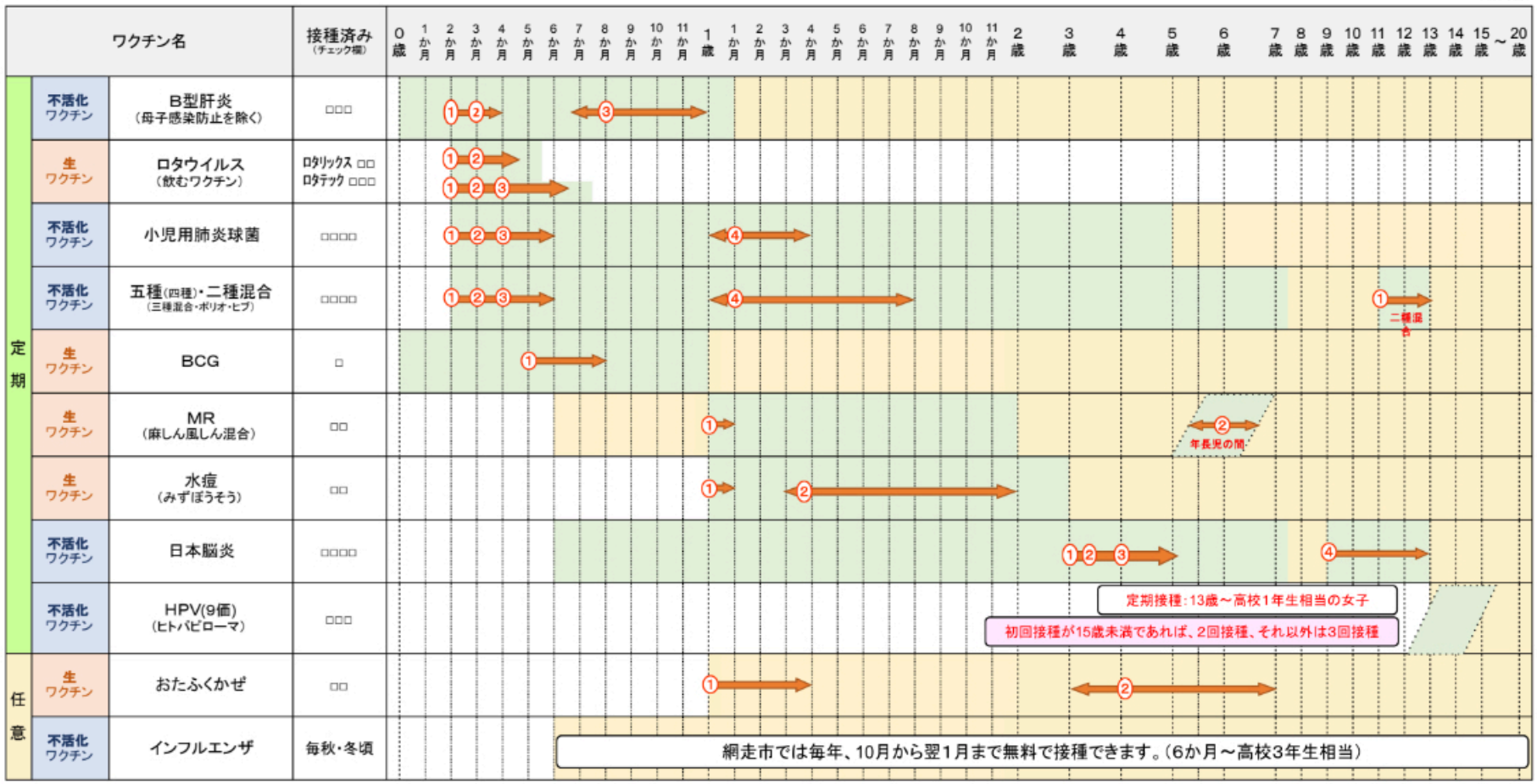
※指定医療機関の曜日、時間等の変更の場合がありますので、接種を希望されるところにご確認ください。

※四種混合･ヒブワクチン接種については、保健センターまでお問い合わせください。

●予防接種の年齢一覧表

予防接種スケジュール

0歳ごろの接種スケジュールは新生児訪問時に保健師とスケジュールを調整しますが、子どもが大きくなってくると、接種機会を逃すワクチン接種が多くあります。そうならないためにも、スケジュール管理が必要になりますので、このスケジュールをぜひご活用ください。



・ご案内（保健センター 所在地）





【お問い合わせ先】
網走市保健センター（網走市健康福祉部健康推進課）
TEL　43－8450
網走市南5条東1丁目10番地（網走市役所2階 14番）